

「区における行政への参加の考え方」検討の方向性についての「アンケート結果」

◆調査対象者：区民会議委員経験者（第6期区民会議委員、第5期以前の区民会議委員で委員長・副委員長・部会長・副部会長等を経験された方）

◆調査期間：令和2年12月

※本文中の「百分率」は小数点第1位を四捨五入しているため、数値の合計が100にならない場合があります。

1 区民会議委員としてご協力いただいた区、役職等について

【①区名】

| 川崎区 | 幸区 | 中原区 | 高津区 | 宮前区 | 多摩区 | 麻生区 | 合計 |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 17人 | 9人 | 9人 | 13人 | 14人 | 16人 | 17人 | 95人 |

【②委員就任回数】

| 1期 | 2期 | 3期以上 |
|-----|-----|------|
| 33人 | 40人 | 21人 |

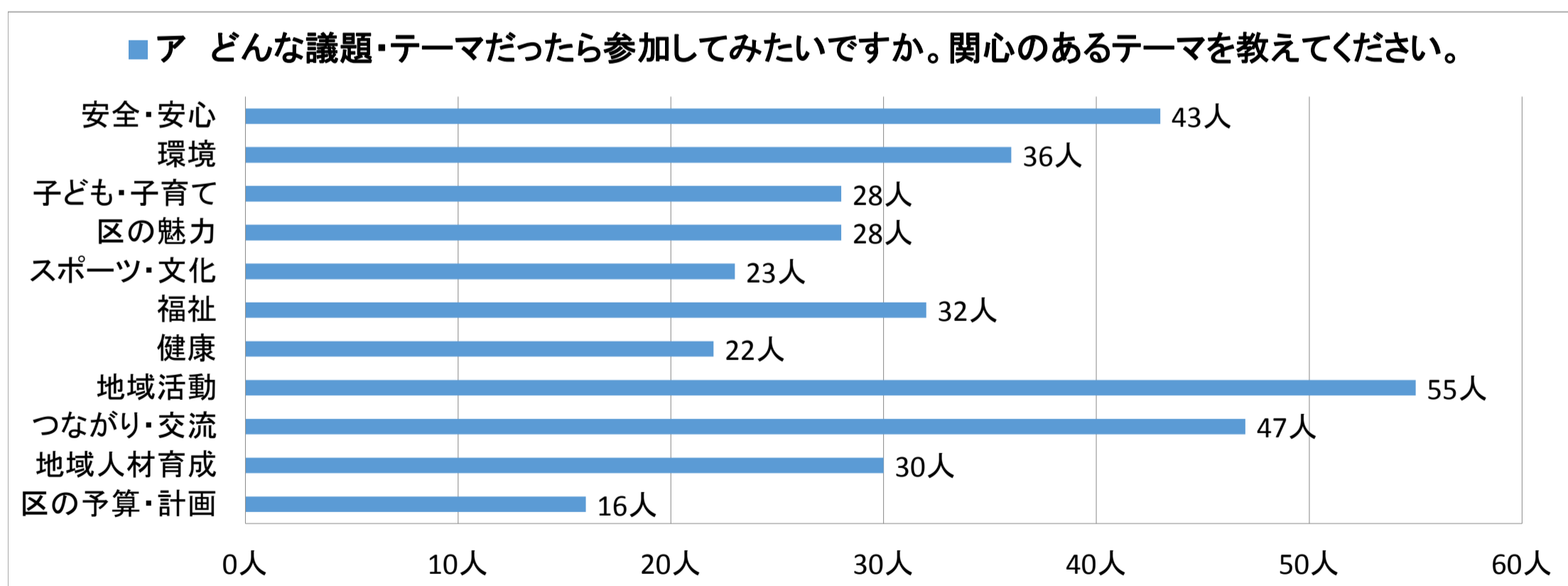
【③役職等】

| 委員長・副委員長 | 部会長・副部会長 |
|----------|----------|
| 29人 | 29人 |

2 資料「区における行政への参加の考え方」検討の方向性について感じたことなどについて

①区民がより参加しやすく、多様な対話を通じた「※市民創発」につなげるしくみとして、「新しい参加の場」を附属機関とはせず、任期や人数を定めず、実施形式や構成メンバーなどは議題やテーマ等に応じて設定します。

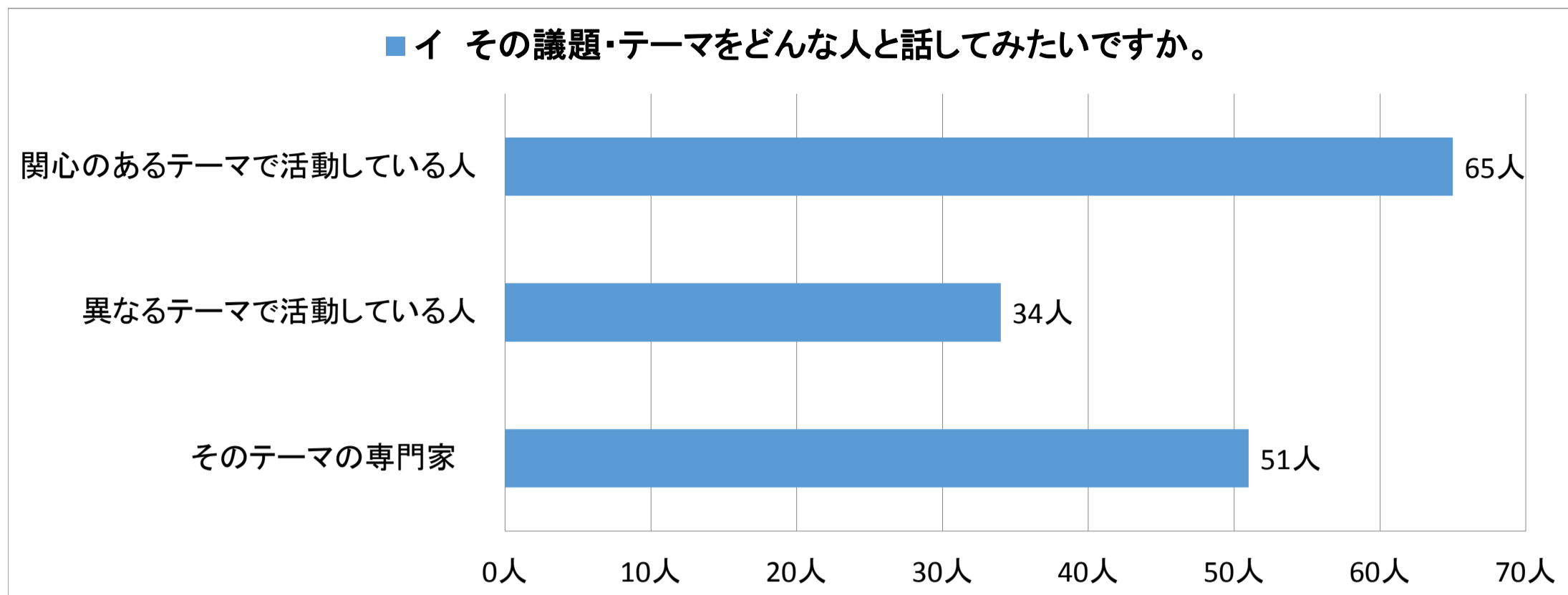
【ア どんな議題・テーマだったら参加してみたいか。】（複数回答可）



（その他）

- ・公共交通（都市計画）
- ・外国人政策
- ・固定せず、その時の流れの中で（全て関連があるので）
- ・自転車
- ・旧跡、文化財
- ・地域課題
- ・IT利用

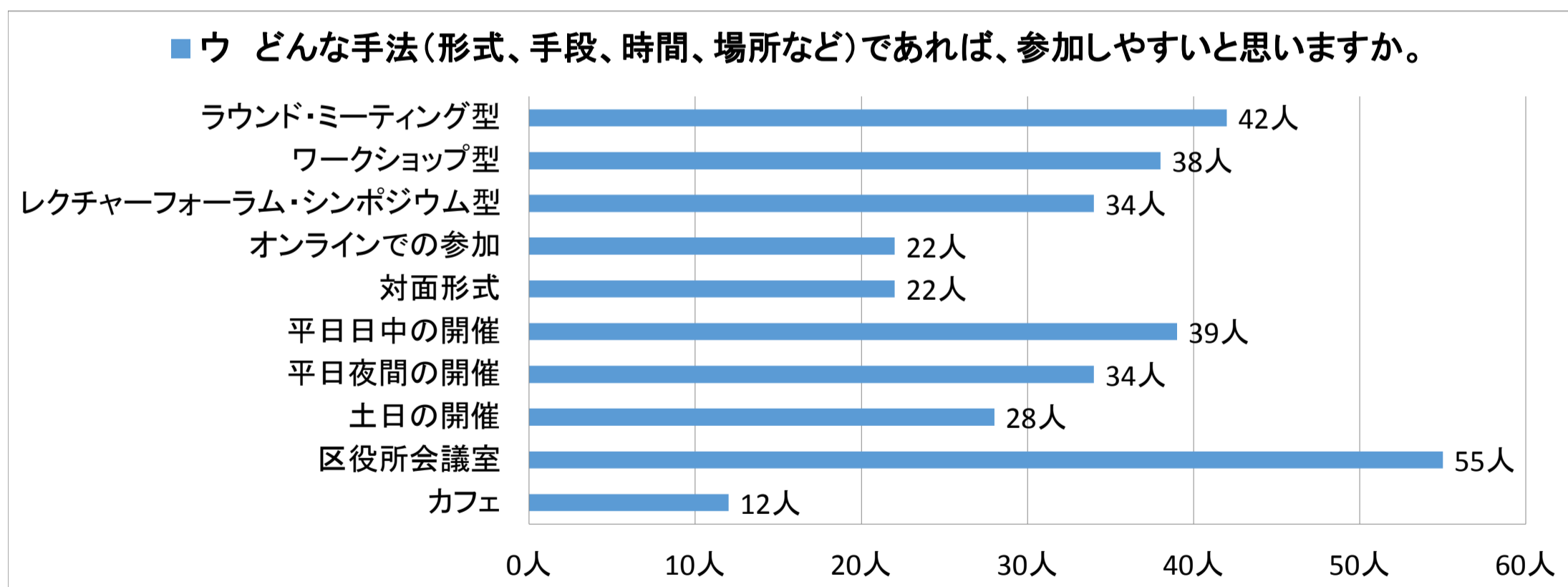
【イ その議題・テーマをどんな人と話してみたいか。】(複数回答可)



(その他)

- ・将来性のある若い人(2件)
- ・小学生、中学生、高校生などの子どもたち
- ・警察官
- ・関心のあるテーマに関わっている人(活動している人=ボランティア、関わっている人=施設、商店主など)
- ・常識人
- ・テーマの行政担当

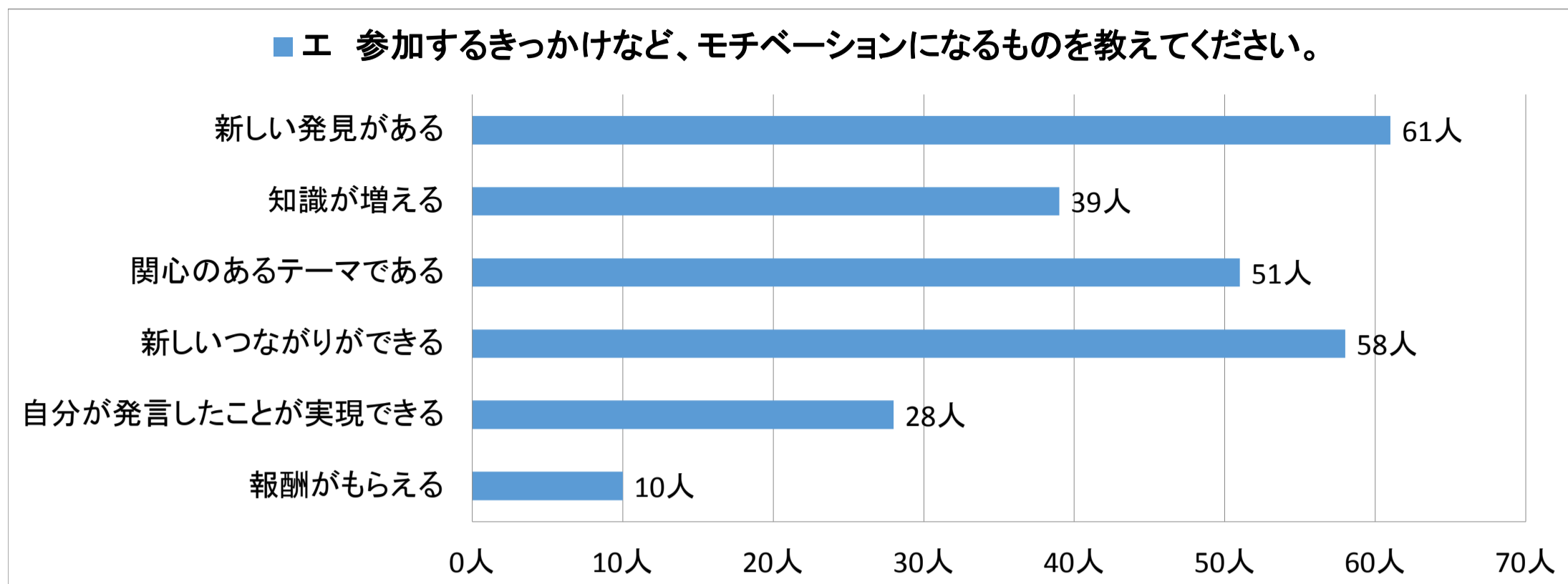
【ウ どんな手法(形式、手段、時間、場所など)であれば、参加しやすいか。】(複数回答可)



(その他)

- ・混合型
- ・その場(メンバーやテーマ)に応じた方法
- ・市民館会議室
- ・市民自治に関する学習機会、先進事例に学ぶ機会
- ・集まりやすい場所であれば、限定しなくてもOK

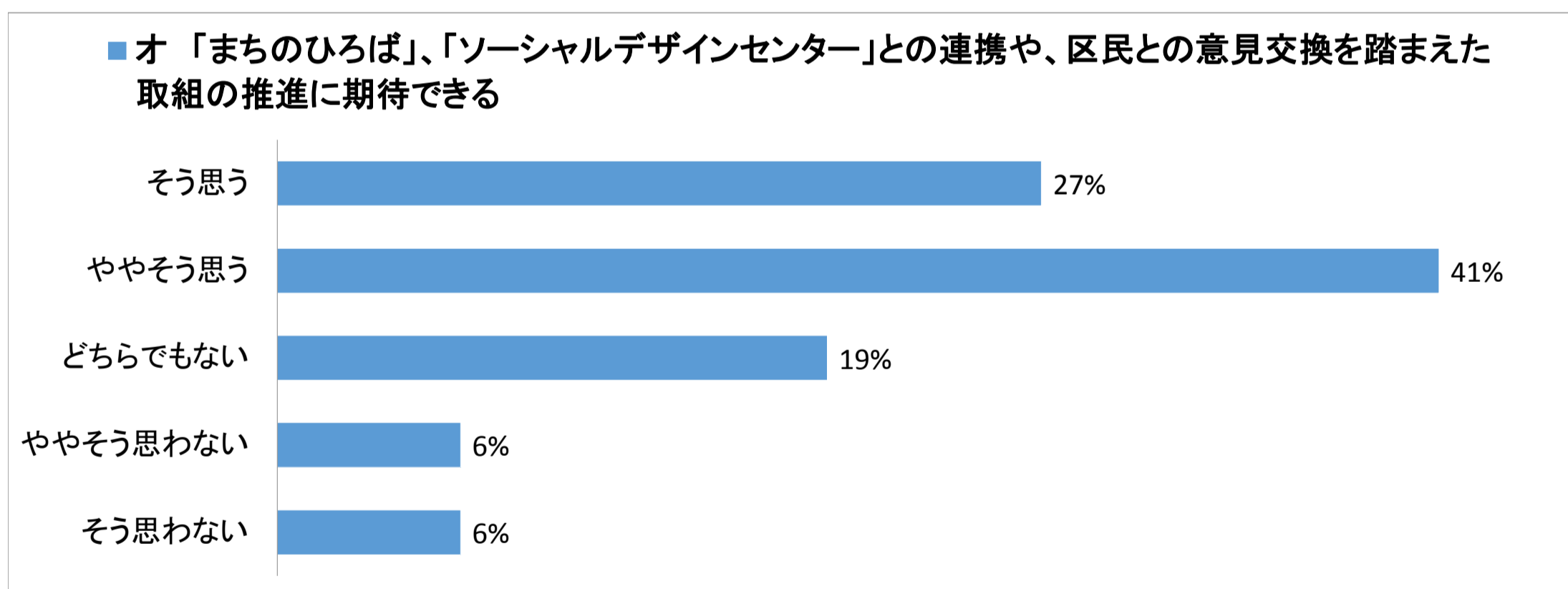
【エ 参加するきっかけなど、モチベーションになるものは何か。】(複数回答可)



(その他)

- ・検討結果が実践されること
- ・地域貢献につながれば尚良
- ・区民の幸福感が増える

【オ 「まちのひろば」、「ソーシャルデザインセンター」との連携や、区民との意見交換を踏まえた取組の推進に期待できるか。】



(「そう思う」、「ややそう思う」とした理由)

- ・今住んでいる川崎について、少しずつ考えを広げていけると思う。小さな一歩からでも。
- ・多種多様な考えを持つ人たちと意見交換をすることができ、考え方が少し変わった。
- ・特に区民会議委員経験者は地域課題抽出・提言の経験あり。「ソーシャルデザインセンター」の人材バンクプール化に寄与。大いなる人材となる。
- ・「まちのひろば」、「ソーシャルデザインセンター」のコンセプト、具体的なアプローチ方法を明確にし、明示する必要がある。

(「どちらでもない」とした理由)

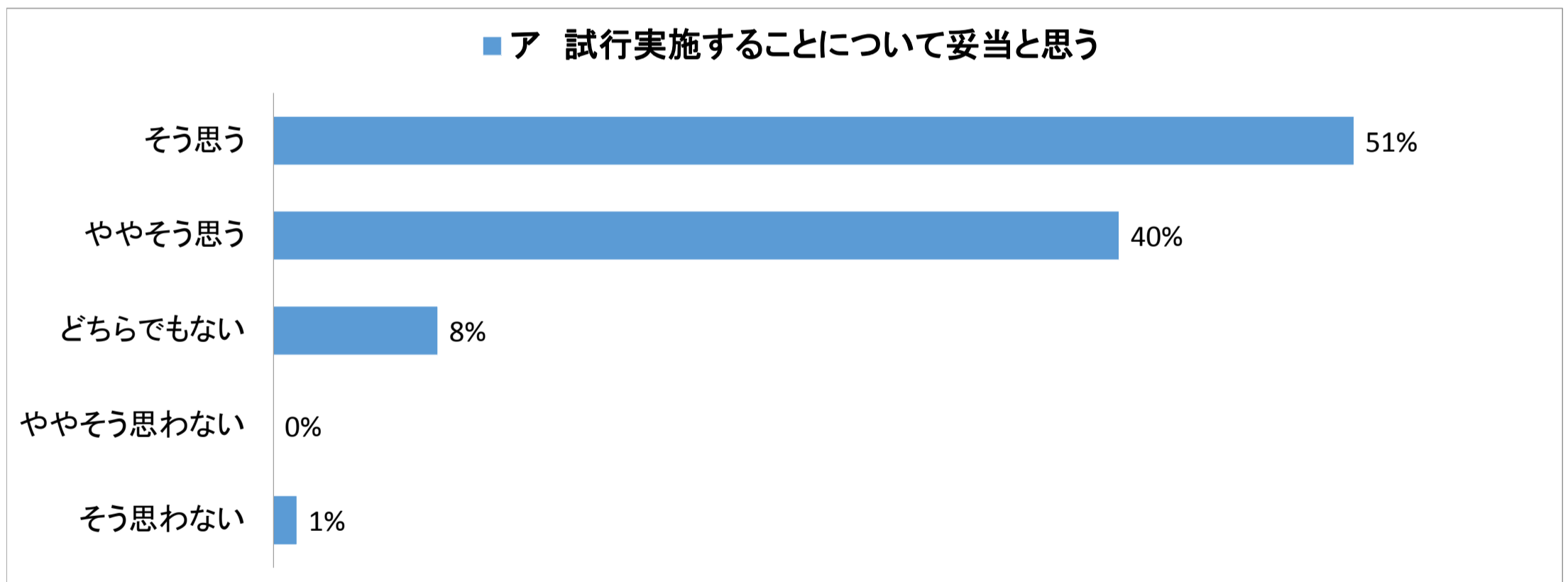
- ・地域住民が行政と協働の意思があれば期待できる。さもなくば、期待できない。

(「そう思わない」、「ややそう思わない」とした理由)

- ・どういう場、取り組みになるかがよくわからない。
具体的なイメージ、あり方、運営が周知されているのか。
- ・「まちのひろば」「ソーシャルデザインセンター」の意見が強くなり、川崎市民の意見でなくなってしまう可能性が大きい。
- ・「まちのひろば」「ソーシャルデザインセンター」を良く理解していないし、わからない。(2件)
- ・現在の宮前区における「まちのひろば」「ソーシャルデザインセンター」に向けた取組は、課題の抽出や解決に向けた活動になっていない。
- ・まだソーシャルデザインセンターによる成果が見えていないので、判断できない。
- ・日本の3000年の歴史から見て、最近の日本の行く末を心配している身であるとの認識と自覚がある。
- ・現在の「ソーシャルデザインセンター」は各区バラバラであり、機能を果たしていない。
一部の利害関係者に占められ、区民のための組織になっていないところもある。
「まちのひろば」も定義がはっきりせず、なんでもありなのかと理解できない。
- ・「ソーシャルデザインセンター」は区民全体のものになっていない。
極めて一部の者の私的活動の場になってしまった。
- ・「まちのひろば」「ソーシャルデザインセンター」と異なる仕組みとすべきで、結果としてそうなるかもしれない。
- ・「有機的な」連携のイメージがわからない。

②「新しい参加の場」を約2年間、試行実施します。

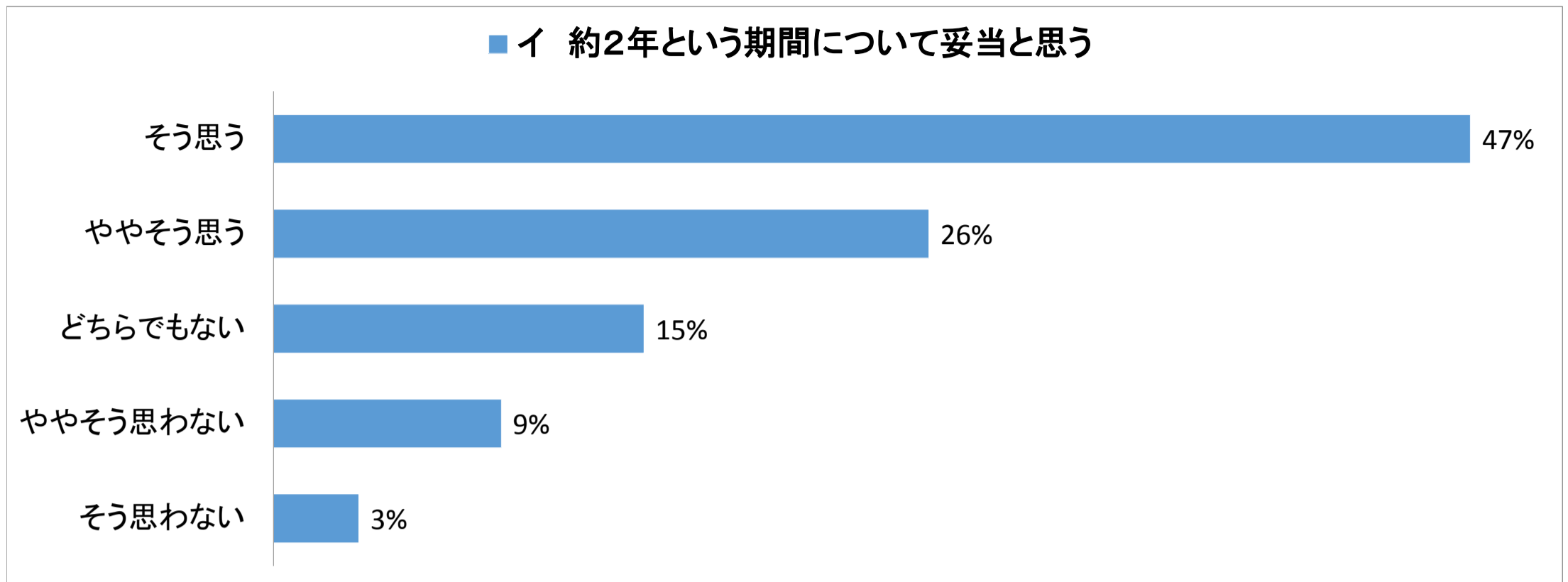
【ア 試行実施することについて妥当と思うか。】



(上記、選択肢を選んだ理由等)

- ・Qの問題提起が150万市民の5,10,30年先の川崎市がどうあったら良いか。
その方向性を議会等の検討から考え、方向性をもとにしたら?と思う。
- ・個人が所属するコミュニティのリーダーシップをとれるなら意味ありだと思う。
意見交換だけでは定義かつ無いに等しい。コミュニティで成功例を作るまで深堀し、実施すべき。
- ・運営に疑問あり。知的ディスカッションを期待できない。
- ・コロナ禍、自然災害など先の見えない予測不能の事態。早急に体制づくりをし、民の力を発現させるべき。

【イ 約2年という期間について妥当と思うか。】



(上記、選択肢を選んだ理由等)

- ・期間はテーマに依存する。実践するのか、しないのか(メンバーが実践に参加するか否か)。
- ・コミュニティで成功事例を作って、水平展開する方式の上滑りの議論に移ろう。
ただし、その議論のエッセンスを吸い上げて、行政かつコミュニティレベルで政策展開すれば成功となる。
- ・成果の見通しができた時点で組織すれば良い。2年の規定は必要ないのでは。
- ・立ち上がりはまず2年とし、検討状況によって期間は短期、長期で継続するか検討し、方向性を出せばよいのでは。
- ・1年目がメンバー間での情報共有(課題、テーマ等)、2年目でまとめる事が中心になり、課題を深める事を他分野の人々との連携を深める事に1年かけて、3年目で提言までまとめた方が良い。そのため、再任は不可でも良い、あるいは委員長のみ再任とかでも良いと思う。
- ・区民会議の経験により、活動を軌道にのせるにあたり、準備期間を含めると、3年くらいあった方が良い。
- ・1年間実施した時点で期間も見直す。

【その他、主な自由意見】

(「区における行政への参加の考え方」検討の方向性について)

- ・自分たちが居住する町は、住民が一番よく知っていると考え。
しかしながら、その風景や出来事が当たり前を感じることも多々ある。
色々な立場や地域からの発信に対し問題意識を持ち、自分に置き換えて考える大切さ、互いを理解し、
一歩前に進む有意義な場となることを願う。
- ・行政参加とはいっても、市民が望む施策や自治にどれほどの実現の可能性があるのか見えて来ない。
市民に分かりやすく進めてほしい。
会議の形態を変えても、いろいろな人の参加を求めても、今までと同じ行政主導になるのではないかと思う。
市民の自主性と言いつつ、市民の自己責任にならないようにしてほしい。
- ・実施可能な課題などを想定した活動を希望する。
- ・とにかくまず実行し、うまく機能しなかった点については、後から修正していけばよいと思う。
- ・新しい形式での市民参加・区民参加や多様な方の考え、意見を吸い上げることが期待する。
- ・何をやるのかを定める場合、評価とすべき指標を明確化し、定期的な効果測定と行動の修正、
手離れするタイミングの判断基準等案件毎の制度設計にもっと気持ちを向けることが必要。
- ・多様なテーマの提案・参加者の絞り込みを解き、多くの人々の意見が採択され、幅広い区民の参加を望む。
- ・誰がどのようにテーマを決めるのか。開催の回数、1つのテーマについての継続開催時期は
どのように決めるのか。一見、柔軟で自由に見えるが、区全体のグランドデザイン
(課題解決のためのしくみ)の中にきちんと位置付けしないと継続可能な協議機関とならないのではないか。
- ・本来の市民自治のあり方を再度検討しなおすべきでは。区民会議も、まちづくり協議会も
結局は中途半端に終わり、それに替わるものとして、いきなり「ソーシャルデザインセンター」、
「まちのひろば」が出てきた印象がある。しかしいずれも、市民創発でなく、市から降りてきた政策だと感じる。
他都市の先進事例に学ぶことも必要だと思う。
- ・「地域課題」は、多種あると思われるが、安心・安全・コミュニティは町会が目標として活動中であり、福祉も
社会福祉協議会・町会が活動している。このテーマであれば、更に効果が挙がるような方法論の議論となる。
- ・地域コミュニティ(=町会・自治会)を選んでアプローチするのは行政の力。
コミュニティ内にやる気のある人を発見するのが鍵。現役の若い人たちは問題意識が高いし、能力がある。
- ・「検討結果を必ず実践に結び付ける制度」とすること。
- ・市民自治の視点を多くの人が理解し、要求型ではなく、行政と市民と共にまちづくりに関わっていくことは
重要。
- ・区の特性を活かしながら、市につなげていく方向性が見えない。
- ・区における行政への参加が区の中長期戦略に反映されるようにしていくことが望ましいと思う。
- ・若い人たちから率直な意見を汲み上げ、参加を促進することができるようなしくみができるよう期待する。

(新しい参加の場の枠組みについて)

- ・今回は、テーマを決めて、専門家を集めて議論することは良いが、その結果を集約しないと意味がない。
行政が参考程度に聞くことで良しとするなら別だが、議論したことしか残らない。
また、協働が目的であれば、行政も会議に委員として参加し、具体的な落としどころを探っていないと
やはり議論で終わると思う。あるいは、集約意見に対し、行政の回答として、もう1回やることでもよい。
- ・「地域課題」には、区民であっても区外に通勤や通学している人たちや逆に区民ではなく、
区内に通勤や通学をしている人、区内で活躍している企業市民も利害関係者になる可能性がある。
活動団体、住所、職業、年齢にしばられず、幅広く対象者を選出できれば良いと思う。
- ・川崎区は中央地区・田島地区・大師地区とそれぞれ色々な事情・環境等が違うので、
わけた方が意見がまとまりやすいと思う。
- ・その時々・開催時期の状況を考え、参加の皆様の意見を集約して、議題の方向性を進めていく。
- ・報酬はなしでいい。予算の金額によって、会議の回数に制限があった。交通費の支給が良いのではないか。

- ・予算の伴わない会議は時間の無駄。是非、予算に絡む議題を。
- ・議論は、形式ではなく、内容の充実を。委員の選任については、人選に根拠が必要。市議会議員であれば選挙で説明がつく。他部門の委員との軋轢が生じた例があった。
- ・インフォーマルな会議も必要なのではないか。
- ・検討、討議、決議した案件について、報告あるいは提案だけで終わるのではなく、区民などの協力を得て、具体的に取組、実現できるシステムの構築。
- ・子育て中の人も参加できるようオンライン（Zoomなど）を取り入れていったら良いと思う。他の区との交流・意見交換や合同のフォーラムの開催。

（「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」との連携等について）

- ・「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」など新しいしくみとの連携は、横ぐしをさすようにしてほしい。地域包括ケアシステムとの関係も活かせるように整理してほしい。2年の試行期間は連携の可能性を重視してほしい。
- ・家庭・家族の次の自分の所属する単位としての町会・自治会、そしてそれよりもやや大きい単位である小学校区・中学校区、その辺りでの活動や関係づくりが、「まちのひろば」や「ソーシャルデザインセンター」などとの連携につながっていければ良い。
- ・ソーシャルデザインセンター設立までの1年間は一体何だったのか。非常識な人たちが勝手に発言しただけではなかったか。結果として、一部の者が自分のために利用できる形になった。毎月の意見交換も活かされてない。こうなった責任は区にあると思う。
- ・「ソーシャルデザインセンター」との関係について、相互の役割を明確にする。

（これまでの区民会議の成果と課題など）

- ・①課題の取り組みについて、区（企画課）の介入が多かった。
A…課題解決の結果重視のため、難題は避けたがる。
B…他区を意識して解決可能な課題の取り組みを意識する。C…区の立場を取り入れた企画の推進を図る。
D…市部局に関連する課題は避ける。
- ・②課題について、解決を目的にせず、市民が解決のため何が出来るか、行政に協力する役割を明確にすることも大切な課題解決であると思う。
- ・区民会議の良いところは、委員の意見をまとめて、2年かけて行動し、結果を出したこと。良い悪いは評価が分かれるが、自己完結したことである。
- ・区民会議の長年の取り組みで培ってきた川崎区の特長、課題等がどのように引き継がれているのかが、よく見えない。川崎区の地域性に基づいたあり様について、もっと論議を深めることが必要だと思う。
- ・区民会議でテーマを決める時、委員から出されたテーマを集約する時大変である。自分の出したテーマが採用されないと会議に興味が出ないようであった。
- ・区民会議を振り返ってみると、区民会議で審議を行ってきた解決すべき地域課題は、個々の具体的な場所や個別の要件などに起因するものを除けば、どの行政区にも共通する高齢化の進展や地域住民同士の関係の希薄化に起因するものであったような気がする。
- ・区民会議の「失敗」は、会議で課題の抽出を行い、解決策を示したものの、そこから先は行政に委ねられた。施策が行われたものも、行われなかったものもある。すべては行政次第で真の市民参加はなかったと思う。
- ・旧態依然とした古い町内会の代表ばかりが幅をきかす雰囲気を見て、遅れているなと思った。

（その他）

- ・自転車乗車時のマナー対策が必要だと思う。
- ・関心のあるテーマの事例に、農業関連の項目が不在である事が残念。高齢化している中で、農業に関心のある区民が結構存在していると思う。
- ・世代間のITリテラシーの格差は問題。